

豊かなまち、環境文化都市ちちぶ

市民との協働により 日本一しあわせなまちへ

住んでみたい秩父市、産んでみたい秩父市、住み続けたい秩父市！

市議会3月定例会が3月1日から16日まで新議場で開かれ、議案の審議に先立ち、久喜市長は平成29年度の施政方針を表明しました。この施政方針の概要をお伝えします。

平成29年度 最重要事項

① 新市役所本庁舎・市民会館の未来を見据えた運用

新たな市役所本庁舎は、市民にとって安心して頼れる市役所となるよう、防災拠点としての体制整備はもとより、市民サービスのより一層の向上を図り、親しみやすい環境にします。また、新秩父宮記念市民会館については、芸術文化創造拠点としてさまざまな事業を展開し、遠方からも多くの方にお越しいただけるよう、将来にわたり秩父地域の芸術文化の殿堂として、地域の方に愛される施設を目指します。

② 産業経済の発展で人口増を目指す

企業誘致を推進し、地元企業の要望に応えられるよう積極的な支援を展開して、産業の振興と雇用の拡大を目指します。

また、カエデ糖のお菓子をはじめとする地場産品や新たな秩父ブ

ランドを育成し、海外に輸出する仕組みを構築するなど、新たな市場の開拓に継続して取り組むとともに、伝統産業「秩父銘仙」の技術の継承を推進します。

さらには、民泊や外国人誘客を加速させ、芝桜まつり、龍勢祭、秩父祭などを通し、多くの方々に「おもてなし」施策を展開し、観光客数700万人を目指します。

昨年には、秩父祭がユネスコ無形文化遺産に登録され、世界でも注目されています。平成29年度は、秩父祭の記念講演やシンポジウムを開催し、文化的資源の新たな活用策の探求と併せ、観光振興や地域の活性化につなげます。

また、イチゴ、ブドウなどの地域特産品の奨励と第1次産業の振興により、農林業における若者の新たな雇用の場の創出を進め、併せて6次産業化を推進します。

③ 地域医療体制の強化・地域包括ケアシステムの推進

市立病院では、医療機器の整備を計画的に進め、信頼される病院

づくりに取り組みとともに、黒字経営を定着させます。また、認定看護師ほか専門的な研修等を受けた看護師など医療スタッフの配置と活用で、より質の高い医療の提供に努めます。

そして、昨今の勤務医不足により救急医療を担当する病院が3病院に減っていることから、秩父広域市町村圏組合に対し、救急医療施設費負担金を支出するとともに、「ちちぶ医療協議会」を中心に、3つの救急輪番病院や秩父郡市医師会と連携し、秩父の救急医療をしっかりと支援していきます。

次に、産科医療では、秩父地域内で出産ができる医療機関が1診療所のみとなっており、この診療所を支援するため、埼玉医科大学病院と総合医療センターから産科医師の応援派遣をいただくとともに、市立病院からは助産師を2人派遣し、引き続き安心して出産できる体制を確保します。今後も「ちちぶ医療協議会」を中心に、ちちぶ圏域全体で産科医療に対する協議や財政支援を継続することで、

里帰り出産を含め年間500件を超える普通分娩への対応が可能な体制を維持します。なお、引き続き市立病院の産科開設に向けた取り組みを進めます。

また、秩父圏域1市4町が連携し、医療関係者、在宅福祉員などの地域の関係者と行政が互いに



平成29年度施政方針を表明する久喜市長

顔の見える関係を築き上げ、切れ目のないサービスが提供される「ちちぶ版地域包括ケアシステム」を構築し、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくります。

さらには、「第2次健康ちちぶ21」に掲げる「健康寿命の延伸」の実現のため、健康診査等の受診率向上、運動を通しての健康づくりの推進、「健康長寿埼玉モデル普及促進事業」の実施、「茶トレ（ちちぶお茶のみ体操）」の普及を図り、市民の健康増進につなげます。平成29年度は、歩数や各種検診（健診）の受診により付与するポイントに応じ、特典を提供する市独自の健康マイレージの導入に向け検討を進め、医療費の抑制につなげます。

④子育て、教育の充実

保育所や幼稚園の待機児童ゼロを堅持し、学童保育室、ふれあい学校の充実を図ります。また、祭りなどを通して、子どもが伝統文化に触れ、郷土愛を育むまちづくりを目指し、地域で子どもを見守り、育てる環境を整備します。

また、教師の「教える」技術を向上させ、学校・家庭・地域が一体となって、基礎学力の向上を図ります。ICT（情報通信技術）を活用した授業展開や、国際化を視野に入れた英語教育を充実させるとともに、少子化・人口減少にも対応した教育の質の確保を図ります。小中学校普通教室へのエアコン設置については、教育環境の整備を図るため、平成28年度からの繰越事業として、小学校普通教室へのエアコン設置工事をを行い、今年の夏までに、全小学校への設置を終了します。その後は、中学校への設置を進め、最終的には、小中学校普通教室のエアコン設置率100%を目指します。

⑤循環型社会の構築と森林施業の効率化

環境保全の意識を高め、リサイクルの活用など持続可能な環境型社会の構築を推進します。まず、小水力発電、太陽光発電、バイオマス発電等、最新のエネルギーを研究し、電力の地産地消とスマートグリッド（※1）を目指します。

また、市有林において取得した

森林管理認証や東京都港区と締結した「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を活用し、関係各種団体と連携の下、大消費地域への秩父材の利用促進を進めます。さらには、森林資源情報ICT化を推進し、計画的・効率的な森林施業と搬出間伐の促進による適正な森林経営を推進し、森林・林業・木材産業の振興を図ります。さらには、木に親しみ、木を生かし、木とともに生きていく「木育」の活動を多くの人に知ってもらうため、秩父での開催が予定されている「第5回木育サミット」は、関係団体と連携し、全国の多くの方に参加いただける会議にします。

⑥安全で安心なまちづくり

セーフコミュニティ活動を基本とし、町会など地域組織との協働の体制づくりを進めます。また、災害による被害を未然に防ぐため、市民に情報をいち早く伝達し、国や埼玉県との連携も強化しながら、地震・風水害・土砂崩れ等に対応した防災計画を実践します。また、ハザードマップや避難所等の市民への周知徹底を図り、市民を守り抜く体制を整備します。

防災行政無線システムについては、平成29年度から3か年でシステムの統一と更新を行い、迅速かつ的確な防災・災害情報の伝達体制を整備します。

制を整備します。

大滝地区は、山間部に集落が点在し、さらに高齢者の多い地域であることから、1人暮らし高齢者世帯への緊急通報装置の設置や介護予防としての自立的生活の助長、社会的孤立の解消、健康寿命の延伸を図っていきます。

平成27年度から進めている、大滝地区の総合支所等の公共施設を旧大滝中学校へ移転し、機能集約する「小さな拠点事業」についても、移転改修工事に係る実施設計業務をもとに、平成29年度は改修工事を実施します。

⑦人を呼び込む施策の推進

豊島区との秩父版CCRC構想（※2）（秩父市生涯活躍のまちづくり構想）では、基本構想・基本計画をもとに、若者から子育て世代、中高年齢者に至るまで、誰もが健康で生涯活躍できるまちづくりの実現のため、総合事業とモデル事業を並行して行い、体制整備を進めます。

総合事業として、二地域居住推進に向け、平成29年度から、新たに移住相談センターを開設します。秩父市では初めてとなる移住相談の専任職員2人と地域おこし協力隊員を配置し、移住説明会や体験ツアーの実施など積極的な広報活動を行うことで、秩父への移住を希望される方のニーズに対応します。また、空き家バンク、市

管住宅活用など新たな移住への積極的な取り組みを検討します。モデル事業では、複合的なサービス

拠点施設の整備として、拠点施設に必要な機能、施設の内容を検討した上で、事業者の公募と併せて事業候補地の選定を進めます。

⑧広域事業への積極的な応援

広域水道事業は、国からの交付金を活用し、広域化整備・老朽化更新整備などを実施し、運営基盤を強化するべく支援を続けます。さらに、新火葬場の運用を積極的に支援します。

◎持続可能な公共交通の確保

現在行っている公共交通の確保対策と、高齢者対策や子育て環境の充実策を兼ね備えた事業として、交通事業者に対する公共交通確保対策補助事業のほか、利用促進に向け、高齢者や高校生を対象とした利用補助を、2年間の実証実施の事業として平成29年度は拡大し、公共交通の利用推進を強力に進めます。

基本方針	
第2次秩父市総合振興計画を 実現するための目標「6項目」	
1	産業経済の振興と拡大
2	医療・福祉の充実
3	子育て・教育の充実
4	「環境立市ちちぶ」の更なる推進
5	社会基盤の充実
6	健全な行財政経営

※1 スマートグリッド…再生可能エネルギーによる地球環境に貢献する取り組み
 ※2 秩父版CCRC構想…中高年齢者をはじめ、多様な世代が、地球社会に溶け込みながら健康でアクティブな生活を送ることができるコミュニティづくりのこと